

このところ日中の気温の高低がめまぐるしく変わっています。半袖でいいかなと思って外出すると、風がひんやりとしていて肌寒く感じるがありました。それでも、そろそろ夏に近づいてきてジッと梅雨の音が聞えそうです。

### ● ツバメ(燕)



江戸川の春はヒバリが空高くさえずり始めて、4月にはツバメが低空飛行で忙しそうに飛び交います。そして5月、ツバメたちは住宅街の其処彼処に巣作りを始めます。

← 流山街道近くのデイサービスの玄関上部。孵化前の卵を守っているようです。大敵はカラス、施設スタッフや通所されている皆さんが工夫して外敵を防いでいます。

→ 日大歯科病院の体育館・食堂入口付近でも同じように、親鳥が卵を見守っています。



5月中旬、孵化しました。親鳥は忙しそうに飛び立っては「エサ」を加えて戻ってきて赤ちゃんに食べさせています。



千葉県「生物多様性センター」の情報通信4月号からツバメの記事を抜粋紹介します。

「春になるとフィリピンやマレーシアなどの東南アジアから渡ってくるツバメ。日本に来る目的は子育てです。」

「ヒナに与える小さな虫を求めてはるばる飛来します。東南アジアにとどまる方が、日本にくるよりも沢山の虫を食べられるような気がしますが、実は冬の間ほとんど虫のいない日本は、春になると熱帯地方よりもはるかに大量の虫が一度に発生するのだそうです。・・・子育てのために3,000km以上を旅してやってくるツバメにとっては大切な食料となります。」

「ツバメの持つ細長く大きな翼と長い尾羽、小さく流線型の胴体は、急旋回やホバリングなどの曲芸飛行と、渡りに必要な小エネルギー型長距離飛行の両方を可能としています。」



● 江戸川の河川敷から水元公園へ (5月6日日)



松戸側の土手から葛飾橋を渡って、水元公園の入口に向います。



● 松戸から矢切を越えて市川国府台里見公園へ (5月15日)



サクラ、フジ、ツツジと開花して、もうすぐにアジサイですが、その前にバラがありました。「里見公園のバラが見たいなあ。」と思い立って、自転車で出かけました。矢切のネギ畑を経て、里見公園のバラ園へ。



バラ園は市川国府台の式場病院(精神科)の創設者が市川市と協力して、昭和28年(1953年)にJR市川駅ロータリーにバラの苗木を植えたのがはじまりだそうです。その後、里見公園に移植されて今日に至ります。

● 式場病院のバラ園へ



公園から松戸市川街道を少し松戸方面にもどると式場病院があります。門を入ると女医さんがいらっしゃったのでバラ園の場所を尋ねると、「バラ園は一般公開してないけど、内緒だね。」と言って頂けました。

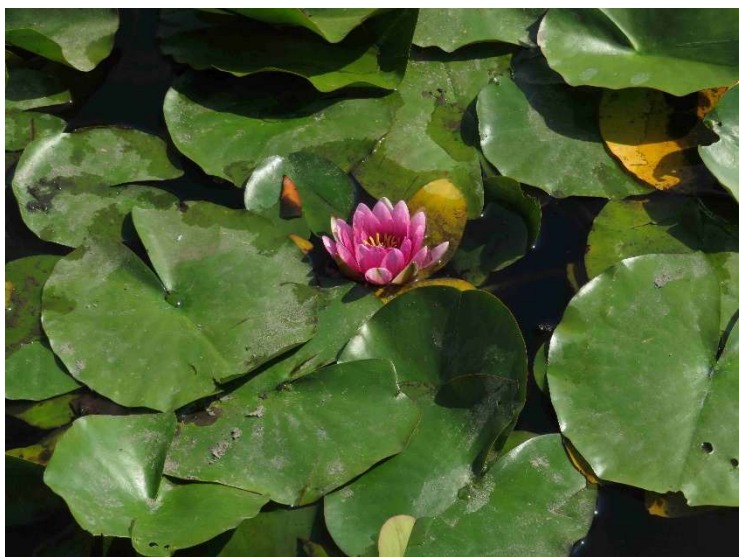


僕の子どもの頃(昭和 30~40 年代)は、確か、病院のバラ園は一般開放されていて、僕の母とお友達は連れだって訪れていました。江戸川区の小岩から市川橋を越えて、国府台へのハイキングです。



← 式場病院を国府台方面にもどっていくと「じゅん菜池緑地」があります。

そして、「小岩市川関所跡」を経て、市川橋を渡って、「小岩菖蒲園」へ。



少し時季が早かったようで、菖蒲の盛りは 5 月下旬頃からです。スイレンもアジサイも少しだけ早咲きしていました。

シロツメクサの咲く河原では、またキジのオスが「ギーギー」とガラガラ声の鳴き声をあげて、「のんびりおじさん風」に歩いていました。



● 表慶館と伊藤若冲



東京国立博物館表慶館で伊藤若冲「動植紗絵」と狩野永徳「唐獅子図屏風」の高精細複製展示がありました。

表慶館は素敵な建物です。

皇居三の丸尚蔵館の今秋全面開館記念企画です。同館の収蔵する若冲を100年前に展示した記念企画だそうです。

